

Fairmont Château Laurier」のホテル名が誇らしげに掲げられた正面ファサード



2階回廊から俯瞰したエントランスホール。シャトーローリエはオタワを代表する迎賓館の役割を担う



クラシカルな館内ロビー周りは重厚な雰囲気になり、後方にはチャーチル英首相など多くの著名人の写真が飾られている



筆者 小原 康裕

ホテルジャーナリスト
慶応義塾大学法学部法律学科卒。
74年 Munich Re 入社。85年築地
原健樹代表取締役。2001年投資顧
問会社原健設立、代表取締役 CEO。
JHRCA、日本ホテルレストランコン
サルタント協会理事。
www.jhrca.com/worldhotel
現在、筆者のホームページで「世界
のリーディングホテル」を連載中。
多くの美しい写真と興味深いコメン
トで、世界中のホテルとそれら関連
都市を紹介。

フェアモント シャトー ローリエ Fairmont Château Laurier

www.jhrca.com/worldhotel?cat42

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

※本連載は毎月2・4週号掲載



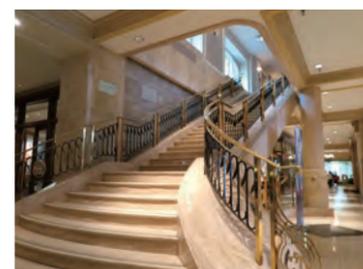
世界遺産のリドー運河から望む、フランスのシャトーを彷彿させる華麗な「Fairmont Château Laurier」。後にカナダ国鉄に吸収される「Grand Trunk Railway」のオタワ・ユニオン駅のホテルとして1912年に建設された



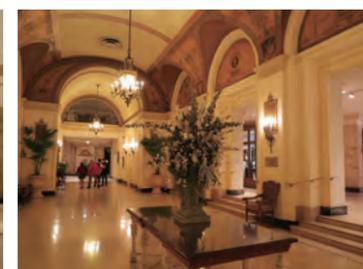
ゴールドフロアのゲストに用意された「Fairmont Gold」のレセプション



華やかなデザインレイアウトの「Fairmont Gold」ラウンジ内部



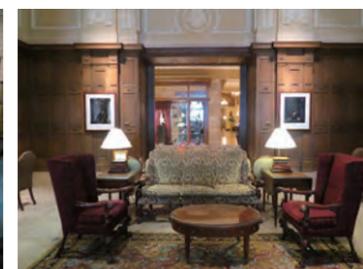
2階回廊に通じる優美なステアケース



創建当時の面影が残る「Peacock Alley」。着飾った紳士淑女の姿が孔雀のように華やかだった事に由来する



メインダイニング「Wilfrid's Restaurant」はローリエ卿のファーストネームを冠した気品あるレストランだ



ローリエ夫人の名を冠した「Zoé's Lounge」の前に用意されたライブラリーラウンジ

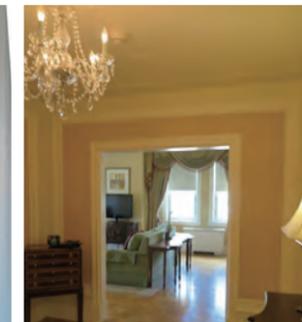


「Fairmont Gold suite」の中で約60㎡の広さを持つ「Parliamentary Suite」のリビングルーム。専用の「Fairmont Gold」ラウンジが利用でき、リビングには暖炉が置かれたエレガントなスイートだ



「Parliamentary Suite」のゴージャスなベッドルーム

広い面積を確保した玄関ホワイエから
リビングルームを望む



カナダの首都オタワの中心部、ネオゴシック様式の国会議事堂と世界遺産のリドー運河を挟んで、フランスのシャトーを彷彿させる華麗なホテルが建っている。ホテルの名は「Château Laurier」。後にカナダ国鉄 (CN) に吸収される「Grand Trunk Railway」のオタワ・ユニオン駅のホテルとして1912年に建設された。ホテル名の「Laurier」は、フランス系として初のカナダ首相になる Wilfrid Laurier 卿の名前にちなんでいる。建物は1981年にカナダの歴史的建造物に指定され、99年にはフェアモントグループ傘下に入り「Fairmont Château Laurier」の名称となっている。

オタワの名は「交易」を意味する先住民の言葉で、ヨーロッパ人の毛皮商人の交易所であった。街はリドー運河の建設を境に発展し、1855年にはオタワは市に昇格。2年後の57年、英国ビクトリア女王の裁定でオタワが英国領カナダの首都となる。当時カナダは、英国系アッパーカナダ (現オンタリオ州) とフランス系ローワーカナダ (現ケベック州) の勢力争いがあった。オタワは、その勢力から中立的な土地であり、軍事的脅威であったアメリカ国境に近すぎず英国系とフランス系の境目という、まさに絶妙なロケーション。両文化の架け橋にふさわしい場所であった。

シャトーローリエはオタワを代表する迎賓館の役割を担い、33室のスイートを含む全426のゲストルームを擁する大型ホテルである。クラシカルな館内ロビー周りは重厚な雰囲気になり、滞在したチャーチル英首相、エリザベス女王、ドゴール大統領ら多くの著名人の写真が飾られている。筆者にアサインされた部屋は約60㎡の広さを持つ「Fairmont Gold suite」で、専用のゴールドラウンジが利用でき、リビングには暖炉が置かれたエレガントなスイートだ。メインダイニング「Wilfrid's Restaurant」はローリエ卿のファーストネームを冠した気品ある佇まいで、リドー運河や国会議事堂の荘厳な景色を堪能できる。同じく、ローリエ夫人の名を冠したラウンジ「Zoé's Lounge」はアフタヌーンティーが人気だ。スパ施設「Health Club」は、フィットネス、プール、セラピールームなど充実している。

シャトーローリエは2012年に創業100周年記念を迎えたが、タイタニックも同じく節目の年を迎えた。前述した鉄道会社のオーナー、Charles M. Hays氏はホテルのオープニングに合わせて滞在先の英国からカナダに戻る途中、乗船したタイタニック号で遭難してしまう。社長不在により、やむなくオープンが数カ月遅れたという、そんな悲劇の逸話が残るホテルでもある。

WORLD'S PRESTIGE HOTELS
世界の名門ホテルから厳選
小原康裕 渾身の写真集 第二弾
「世界の名門ホテル」
絶賛発売中
世界最高ランクのホテルの
美しい写真と解説にご期待ください。